

Libella りべら

持続可能な未来をみんなでつくる

vol.169
2025.10

あおぞら財団
30
Anniversary

特集1



特集2

あおぞら財団の
30年を振り返る

手渡したいのは青い空
―公害経験を継承していく―

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

りべら
vol.169 2025.10

あおぞらフォトギャラリー



第4回大阪サイクルピクニック。ちゃんと走ろう! もっと自転車レーンを! アピール走行やサイクルサッカーのミニ試合など自転車を楽しむ一日に。(2025.9.13)



西淀川公害オーラルヒストリー。西淀川公害訴訟弁護団の早川弁護士にお話を伺いました。熱い語りに心も熱く。(2025.8.1)



楽しく呼吸会。環境再生保全機構と共催で、大阪・川崎・名古屋・岡山をオンラインでつなぎ、全国55名が参加。呼吸リハビリの大切さを体感! (2025.9.12)



おもろいわ
西淀川



大きな緑のF!
蔦の力はすごい!

場所 西淀川区大野



#にしよど #魅力発信サポーター
#おもろいわ西淀川 #すべてが緑に

西淀川区魅力発信
サポーター事業と連携



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

【あおぞらビル】

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコパ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。

午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。(環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設)

開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00)/要事前電話予約

※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。

【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、
法人・団体:年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

【郵便振替口座】記号・番号:00960-9-124893/加入者名:あおぞら財団
【ゆうちょ銀行】金融コード:9900/店番:099/預金種目:当座
/店名:0九九店/番号:0124893/名義:あおぞら財団

【三菱UFJ銀行】歌島橋支店/普通/3728858/財)公害地域再生センター
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

りべら(Libella)はラテン語で「トンボ」と「自由」の意味をかけたものです。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

〈表紙の作品〉

タイトル:空色の旗をふる | Flag of Sky in Nishiyodo2024 作家:村田のぞみ

会場:大阪市西淀川区福町(福町会館・緑陰道路)

主催:大阪公立大学EJART人材育成プログラム

協力:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)、西淀川区役所共創事業、みてアート2024

撮影:寺岡 海 2024年11月4日、淀川河川敷(大阪市西淀川区)にて撮影

2

西淀川公害についてのレクチャー(約1時間30分)

- ・フォトランゲージやロールプレイなど参加型教材を使い、より深く学びます。
- ・エコミューズ(西淀川・公害と環境資料館の見学も行います。



フォトランゲージ「西淀川公害」
写真を観覧してみんなでタイトルを考える



ロールプレイ「あなたのまちで公害が起きたら」
役になりきって公害を体験!

3

公害語り部との交流(約1時間)

公害語り部(西淀川公害患者と家族の会)から被害の実情や公害反対運動への思いを語ってもらいます。質問や感想の共有を通して、公害語り部と交流します。



やました あきら
山下 明さん

「人間を演じての経済成長ではなく、みんなのためになる柔らかな成長を!」語りから仕事への誇りと家族への思いが溢れます。昭和50年に公害病の認定を受けています。



すえ さよこ
須恵 佐與子さん

「大気汚染で子どもたちが育てていた観覧用のアサガオがひと晩で枯れたことも」民謡が大好き。昭和45年に公害病の認定を受けています。

4

ふりかえり(20分)

研修を振り返り、印象に残ったことや今後に活かしたいことを話し合います。



ぜひ西淀川で、五感を使って西淀川公害を学んでみませんか?

デイサービスセンター

あおぞら苑



2006年10月1日にデイサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがデイサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。



あおぞら御膳



あおぞらの湯

【お問い合わせ】

TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114

URL : <http://aozoraen.com/>

運営 : 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号

開所曜日: 月曜日~土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)

〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号

開所曜日: 月曜日~土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日25人

広告

特集1

手渡し
たいのは
青い空

—公害経験を継承していく—



体感する研修—

西淀川公害を

ではない—

公害は遠い過去

あおぞら財団では、環境省や医療機関、大学ゼミなどの「西淀川公害」をテーマとした研修を年間約20件受け入れています。ここでは、ある研修の一日を紹介します。

1

フィールドワーク(約1時間30分)

五感を使って西淀川の公害の痕跡や環境対策、地域の課題を体感します。



a. 大野川緑陰道路

市民の声で、ドブ川から緑の道に生まれ変わった大野川緑陰道路



b. 国道43号

大型車を阪神高速湾岸線に誘導する環境ロードプライシング等、環境対策が実施されています



c. 大気常時測定局(7カ所)

西淀川区では全国に先駆けて2005年からPM2.5を測定!



d. 工場地帯

大気汚染物質の排出を抑えるための建屋集塵装置を確認



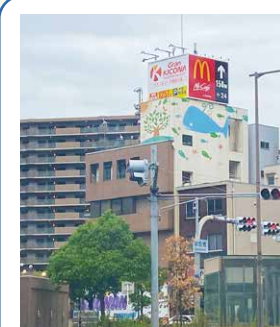
e. 地域再生の石碑

地域再生への思いを馳せる



f. 大阪マシジド

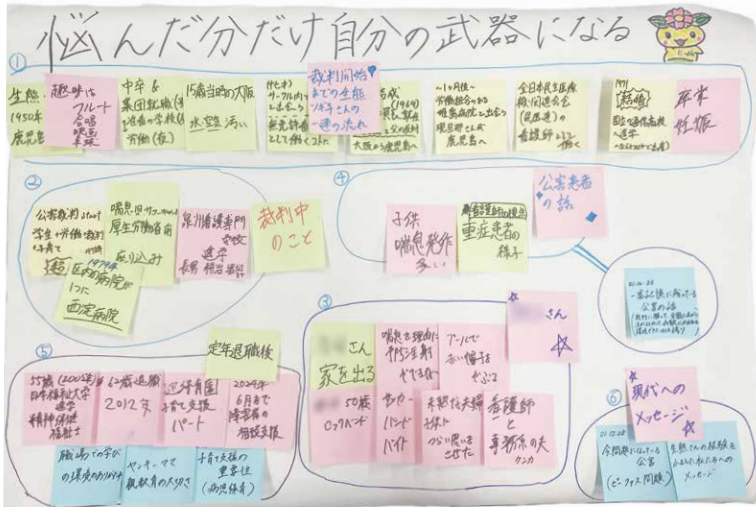
西淀川の多文化共生を体感



g. あおぞら財団

西淀川公害の学びの拠点





聞き書き作品の構成を話し合って決めた

ないのか、「今の話、聞いてた？」と言いたくなるような、会話の文脈を無視した「質問リスト」棒読みの質問を投げつけていました。それがいかに相手を傷つける行為なのか、わからなかったのでしょうか。「患者さんの表情が固かったから緊張した」と言う彼らは、他者の反応に怯え、自分を守るためにコミュニケーションの回路を自ら閉ざしているように見えました。その後、その患者さんが通う民謡教室を訪ね、楽しそうに民謡の練習をする様子を見て、ようやく笑顔で話せるようになりました。

2025年のみでアートではあおぞらビル1階と3階で展示を企画しています。水俣の「地元学」の取り組みに学び、地域に住む人が愛着を感じられることが、地域再生のひとつの姿ではないかと彼らは考えました。公害の歴史も含めて、「西淀川っていいまちだな」と思う人が増えてほしいという願いです。難しいテーマに取り組みようと意気込んでみたものの、自分勝手な行動が多くチームになりきれず、リーダーの呼びかけには応答しない。深く考えることを「時間の無駄」と捉え、安易な結論を出してしまう。記録をとり参照する習慣がないので、積み上げた議論をすぐに忘れ去る。教師は何をやっているのか！とお叱りを受けそうですが、それが現実です。私は毎週の



にしよ防災エキスポに参加したあと、野里のファーストフード店で動画の構成を相談した

ゼミが終わるたびに落ち込んでいます。公害経験継承の難しさ以前に、「今どきの学生は…」と悪口を言いたくなりますが、この3年間、学生たちは西淀川に通い続けています。「単位が欲しいならあげるよ！やりたくないならやめよう」と言われても、やめたいのはなぜ？不思議な人たちです。正解のない問いに答えられなくとも、彼らがそれを手放してはいないことに、微かな希望を感じています。西淀川の人と風景にあたたかさを感じ最後には学生が「公害の経験を学んだことに意味があった」と心から思ってくれたらいいと思います。

みてアートの、不思議な大学生に、ぜひ会いに来て下さい。

公害を若者に

伝える意味

西淀川に通い続ける大学生
今どきの学生って
どうなん？

しみず まゆこ
清水 万由子
(龍谷大学政策学部)

公害地域再生の運動に加わろうと、西淀川でのゼミ活動を始めて、今年で3年になりました。患者さんへのインタビュー、動画撮影、住民の方の聞き書き作品の制作、みてアートへの参加など、学生は約1年間、あおぞら財団の協力のもと西淀川で様々な活動に取り組み、最終的にはみてアートでのブース出展と学術論文という2つの形に成果をまとめます。

龍谷大学でのゼミは、身体を通して学ぶことを意識してきました。人に出会い、土地を歩き、実際に自分の身体を使ってみることで、言葉では表現しき

れない暗黙知(経験的な知識)を獲得することを期待しています。その結果、各人の人格や信念の中に公害の教訓が1つでも織り込まれていけば、それが公害経験の継承だと考えています。

しかし、公害経験の継承は平坦な道りでないことが、年々身に染みます。1年目のある学生は、患者さんへのインタビューなど、半年ほどゼミ活動を重ねた後で、「家族や友達が公害病



ゼミに入りたての頃、はじめて西淀川へきて、患者さんと話をした





mizutamaさん(写真右)2024年11月、もと歌島橋BTにてベトナムの作家トラン・ミン・ドゥック氏と

mizutamaさん

岡山県出身。美術や音楽などジャンルを超えて様々な表現活動を行う。2012年より大阪市此花区梅香に位置する共同アトリエ「此花メチア」に入居して以降、その地を活動の拠点とする。2013年に同地でアートスペース「FIGYA」の運営を開始。2016年よりフィリピンを中心に、東南アジアで展示、パフォーマンス活動を始める。



「Beneath The Blue Sky」
2024年11月4日書庫にて 撮影：力武拓也氏

2024年みてアート期間中アーティストmizutamaは、かつて西淀川区で起きた大気汚染を中心とした公害とそれに伴う裁判における資料が保管されている書庫(あおぞらビル6階)にて、現在の西淀川区を歩きながらフィールドレコーディングしたサウンドによるインスタレーションを展開。



村田のぞみさんによる「思い出の空色」
ワークショップの様子/患者さんも一緒に参加(2024.11 撮影：寺田海氏)

アートで、
公害と人、
未来をつなぐ—

「みてアート」には2024年に初参加。海外のアーティストを招いて、自分の作品も展示しました。アーティスト兼ディレクターとして、関わりました。ベトナムのドゥックさんやタイのアートスペース「MMFA」と交流する中で、戦争や地域の歴史と作品がどうつながるのか、その関係性を肌で感じました。文化や社会的な文脈を作品に落とし込むことの面白さを、改めて実感しました。

街の音と資料をアートに

mizutamaさん

苦しいことであっても、過去の出来事を知ること、よりよい未来をつくる近道で、「この地域でも同じことが起こり得る」という現実感と、そして「昔の人々がどう乗り越えてきたか」を知ることが大切なことではないでしょうか。だからこそ、あえて西淀川でアートイベントを行う意味があると感じています。

西淀川の街は本当にパワフル。旗へのお絵描きにもその力が反映されました。カラフルで自由な表現が生まれたことは、この街ならではの感覚だと思います。

西淀川で実施されている御幣島芸術祭「みてアート」の参加アーティストの中には、西淀川公害を題材にした作品を手がけた方々がいます。二人の活動から、アートが地域の困難な過去の歴史である公害と人、人と未来をつなぐ力を持つことが見えてきます。

「みてアート2024」で特に印象に残ったのは、市内に点在する「グレーな公共空間」の存在。元バスターミナルとか、緑陰道路のような場所。ああいう、

いろんな人がゆるやかに使えるスペースって、西淀川の文化を支える貴重な場所だと思っんです。一方で、工場跡地なんかがすぐにマンションになっていく現実もあって、地域の独自性がどんどん失われていくのを感じます。だからこそ、長い時間をかけて地域と関わってきたいあおぞら財団みたいな存在って、文化の皆みたいな役割を果たしていると思います。

展示では、あおぞら財団のアーカイブや資料を活かして、西淀川の歴史や景観を体感できるような構成を意識しました。アーカイブとかりサーチ自体がアートの基本だし、展示そのものもまたアートだと思っています。エコミューズに展示されている、地域の人が描いた油絵とか資料にはリアリティがあって、見た瞬間、心を掴まれました。

西淀川って、街を歩くだけで歴史が見えるんですよ。建物の雰囲気とか、空気がとか、街並みにその背景がにじんでいる。50、60年前の大気汚染のことなんて、まだそんなに昔の話じゃない。そういう「近い過去」を知ることが、これからの地域の未来を考える上で大事だと思います。

今の時代、アートは文化を享受するだけでなく、意味や力を持つ時代になっています。歴史や社会と向き合い、表現を通じて地域や人の関わりを考えることが、現代のアーティストに求められているって思います。



「思い出の空色」づくりワークショップ

村田のぞみさん

1994年奈良市生まれ。細いステンレス線を用いた空間にドローイングするようなインスタレーションを中心にタブローや写真技法など多様な手法を扱いながら、場所の物語を紡ぐような作品を制作している。近年ではインタビューや対話から史実には残らなかった個人や土地の風景を立ち上げる試みを実践している。主な展覧会に瀬戸内国際芸術祭(2022、2019年/高見島)、御幣島芸術祭(2023年/大阪)など。



村田のぞみさん(写真右)2023年11月5日、作品とともに福地域を回遊中。

旗とクレヨンで描く、西淀川の空色

みてアートには2003年からアーティストとして参加。特定の地域に赴いて作品を制作する際には、地元の人々の話や資料からヒントを得て、その土地の声を第三者に伝えたいという思いが根底にあります。大阪公立大学の「E」アートプログラム*にも参加し、アートが社会問題にどう働きかけられるのか、その可能性を探っています。

E」アートプログラムで推薦を受け、初めて西淀川公害を知り、単なる地域芸術祭ではなく、公害被害者がつくった団体が主催していることにすごく意味を感じたんです。

2024年は、公害というセンシティブなテーマに触れることをより意識し、参加型ワークショップとしてクレヨンづくりと旗へのお絵描きを展開しました。

参加者それぞれが、自分の中にある「空の色」をイメージしてオリジナルのクレヨンをつくって、それで旗に自由に絵を描いてもらいました。当日は、西淀川公害患者と家族の会の方々にも来ていただいて、当時の空を再現した「枯れた空色」と見あげると元気になる空色」という2色のクレヨンも一緒に作りました。全部で80人くらいの子どもたちが参加して、水色や青々焼けのオレンジなど、いろんな色で旗を彩ってくれました。最後に、患者会の事務局長さんにその旗を振ってもらって、作品として完成させました。

企画の段階では、「アートが公害の記憶を『道具化』してしまわないか」とか、「公害というテーマを表現手段として便利に使ってしまうんじゃないか」という葛藤もありました。でも、忘れない声、忘れてほしくない声、思い出したくない声、いろんな思いが交錯する西淀川の過去を伝えることこそ、公害の過ちを繰り返さないための学びになると思っんです。

*E」アートプログラム

大阪公立大学主催。「EJ」とはEquity and Justiceのことで、EJアートは、社会問題に働きかけ、社会の課題を解決する活動を実践するコーディネーターを養成するプログラム。

龍谷大学政策学部清水ゼミ「みてアート2024・にしよ音楽祭2024参加者インタビュー報告書」を元に再構成

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中！

～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

・西淀病院
・のぞと診療所
・千北診療所

・ファミリークリニックあい
・姫島診療所
・ファミリークリニックなごみ

・介護老人保健施設よどの里
・在宅総合センターらくらく
・社会医学研究所

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」
認証施設

看護師・
介護職
募集中！

公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp

あおぞら財団の 30年を振り返る

あおぞら財団が設立してまもなく30年。清水万由子著『「公害地域再生」とは何か』大阪・西淀川「あおぞら財団」の軌跡と未来』の発行を記念して、8月30日にお披露目会・同窓会、9月6日に書評会の2つの30周年記念事業イベントを開催しました。いずれも同書の舞台となったあおぞら財団を会場に、多彩な人びとが集い、これまでの歩みとこれからの未来を語り合いました。その様子をお伝えします。



藤原書店



2025年2月発行

8月30日(土)、書籍『「公害地域再生」とは何か』の発行を記念したお披露目会・同窓会を開催しました。当日は、あおぞら財団設立に関わってくださった方々や元職員、研究者、西淀川で共に活動してきた仲間、大学生など、総勢42名が参加。世代や立場を超えたつながりの中で、これまでの歩みと未来への想いを分かち合いました。まずは著者・清水万由子先生(龍谷大学政策学部)が書籍をもとにあおぞら財団の軌跡を講演。財団の財政状況や職員の声を交えながら、「公害を起こさないまち」を目指し、地域と協働して歩んできた軌跡を丁寧語に語ってくださいました。続く「あおぞら財団へのメッセージ」では、前理事長の森脇君雄さん、元環境省事務次官の森本英香さん・鎌形浩史さん、黎明期を支えた元職員の傘木宏夫さん、大学の先生方から、30年の歩みに寄せた感謝や今後への期待が語られました。当日ご欠席だった宮本憲一先生からも、未来の市民運動や環境再生への大きな期待が込められたお言葉をいただきました。

後半は「みんなで語ろう! あおぞら財団の実践と人びとの経験を描き出した好著」と評価し、吉田忠彦氏(近畿大学)は「多様な人が乗り降りする『乗りもの』としてのあおぞら財団」という視点を示しました。これらに対して清水万由子先生がリプライし、議論は深まっていきました。



森脇君雄前理事長からのメッセージ



清水万由子先生のご講演

今回の集いで改めて感じたのは、あおぞら財団が本当に多くの人に支えられてきたこと。これからも「公害を起こさない社会をめざして、皆さんと共に歩み続けます!」

団のこれまでとこれからをテーマに、6つのグループに分かれて思い出やこれからへの想いを語り合いました。学生ファシリテーターの「環境を良くするためには人とのつながりが大切。その思いはみんな共通」との言葉に、多くの参加者がうなずいていました。最後は資料館やあおぞらビルの見学、そして懇談の時間。久しぶりの再会に笑顔が広がり、同窓会らしい和やかなひとときで締めくくられました。



参加者全員で記念撮影!



グループに分かれてお話「みんなで語ろう! あおぞら財団のこれまでとこれから」

「公害地域再生とは何か」発刊記念

お披露目会・同窓会レポート



「『公害地域再生』とは何か」 書評会レポート



ミニシンポ「公害地域再生の現場から」

9月6日(土)、『「公害地域再生」とは何か』を巡って、著者の清水先生を囲んで研究者や実践者など多様な立場の方々が語り合う書評会を開催しました。会場参加者は17名(スタッフ・コメントーター含む)、オンラインを通じて全国から15名、合計32名にご参加いただきました。

前半は3人のコメントーターが登場。除本理史氏(大阪公立大学)は川崎市や倉敷市水島地区の事例と比較しつつ、「公害経験の継承とまちづくりをどう結びつけるか」という論点を提示しました。茅野恒秀氏(法政大学)は「あおぞら財団



3人のコメントーター



書評会は、対面とオンラインの併用で開催!

今回の書評会を通して、あおぞら財団が果たす役割があらためて浮き彫りになりました。公害地域再生をめぐる対話は、これからも続いていきます。

後半のミニシンポには清水万由子先生、尼崎南部再生研究室(あまけん)の若狭健作氏、あおぞら財団事務局長の藤江徹も加わり、現場からの視点が議論に厚みを加えました。

参加者からは「各コメントーターの組織・現場経験が反映され、議論に厚みがあった」、「都市の記憶を忘却せず掘り起こし続ける取り組みの熱量に感銘を受けた」、「財団を「舟」に見立て、誰が次世代の担い手になるのかをめぐる議論が印象的だった」、「公益財団という組織形態の意義と難しさについて考えさせられた」といった感想をいただきました。

過去の経験を未来へどうつなぐか、地域再生の主体は誰かー笑いも交えながら、多面的で熱のこもった対話が続きました。

ディサービスセンター

あおぞら苑

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

あおぞら御膳

あおぞらの湯

【お問い合わせ】
 TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
 URL : <http://aozoraen.com/>
 運営 : 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)
 〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
 開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)
 〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
 開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日25人

広告



善芸プロジェクト中日交流
(2024年)



あおぞら市
(2012年～2025年)



タンデム自転車の貸し出し
(2012年～2025年)

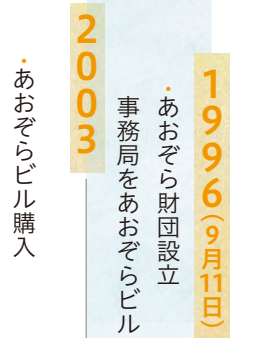
あおぞらビル年表



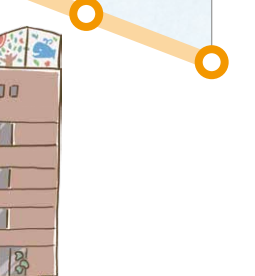
西淀川公害と環境資料館
(エコミューズ)開設
(2006年)



グリーンルーム開所のつどい
(1998年)



1996(9月11日)
あおぞら財団設立
事務局をあおぞらビルに設置



2003
あおぞらビル購入



2006
西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)オープン



2010
地域交流スペース
「あおぞらイコバ」



2012
あおぞらビル壁面緑化
あおぞら市開催
大阪でタンデム自転車を
楽しむ会発足
1階でタンデム自転車の
貸し出し開始

2013
第1回御幣島芸術祭
(みてアート)の会場の一つに

2026
新拠点に
移転予定

あおぞら財団
30th Anniversary



楽らく呼吸会(あおぞら
ビルでの実施は2020年
～2025年)



みてアートでのアート展示
(2013年～2025年)



あおぞらビル壁面緑化
(2012年)



あおぞらイコバボランティアと
一緒にリフォーム(2010年)

2025年度末、あおぞら財団は新しい拠点に移り、次の一歩へと踏み出します。あおぞらビルが残してくれた出会いと学びの記憶を新しい場所へ引き継ぎながら、これからも「公害を起こさない持続可能な社会」をめざして活動を続けます。

調理後の油を 無料で回収します！



50年以上の実績で、
一滴残さず再び資源にリサイクル
資源循環でSDGsに貢献します！

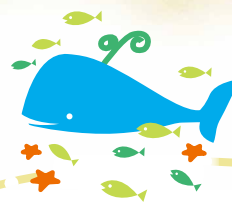


浜田化学株式会社
Hamada Kagaku

まずはお気軽にお電話ください！
TEL 06-6411-3457



@hamadakagaku



JR東西線御幣島駅からすぐ、国道2号と大野川緑陰道路に面した便利な立地にある「あおぞらビル」。
このビルは、1996年の設立から約30年間、あおぞら財団の活動の拠点としてだけでなく、地域とつながり、学び、広がっていくための「場」でした。
あおぞらビルがあったからこそ、公害患者さんや市民が集まり、学び合い、未来の環境や地域づくりを考える数えきれないほどの活動が生まれました。
あおぞら市や研修、環境学習、アートイベント、タンデム自転車の貸し出し：様々な事業・活動がこのビルから広がっていました。

次の一歩へ

そして

ありがとう、

あおぞらビル

屋上



壁画「森と海につながる地球」
西淀川区を上空から見るとクジラに似ている！森が海を育み、生き物たちを支える自然の循環を描いています。

西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)

5F



大気汚染・公害・環境学習の資料や図書をそろえています。
裁判記録やパネル展示で、西淀川公害を学ぶこともできます。
環境教育等促進法に基づく「体験の機会」に指定されています。

3F

グリーンルーム(会議室)



会議、研修、無料塾など、地域の学びと交流の場。

あおぞらイコバ・駐輪場
(会議室)

1F



出会い・憩い・つながりの場。あおぞら市やギャラリー、ワークショップ、楽器練習など、いろんな活動が楽しめます。タンデム自転車の貸し出しもしています。

6F 書庫



西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)書庫。西淀川公害に関する資料を保存しています。

4F あおぞら財団事務所



スタッフが日々の活動を行っています。

西淀川公害患者と
家族の会事務局

2F



公害患者さんの憩いの場でもあります。

全体

外壁には光触媒を塗って、
NOx(窒素酸化物)を削減！
モッコウバラをはじめ、様々な植物で
壁面緑化をしています。





おだ やすのり
エコミューズ館長：小田 康徳

「西淀川再生プラン(図面と提言文)」



1988年3月18日、「きれいな空気と生きる権利を求めて」をスローガンに3.18集会在大阪中之島で大規模に催された。この集会は、患者と市民が力を合わせ、西淀川公害裁判の促進と勝利を叫んだものであった。そこでは、公害患者と市民が団結をする根拠として「きれいな空気」を取り戻すことの重要性、普遍性が強調されていた。それは、当時急速に注目されるようになった大阪都市環境会議(大阪をあんじょうする会・代表宮本憲一)から打ち出される都市論と結びつくものでもあった。「公害地域の再生」「安心して住みやすい街」といった声がここから広まっていた。

思い返せば、西淀川区においては、工場や道路から発するひどい大気汚染体験を重ねる中で1969年から強力に押し進められた中島水道・大野川緑道の

創設運動があり、それに続いた外島への公害企業誘致反対運動など、早くから環境汚染を許さない健康優先の街づくりを求める市民運動があった。

だが、1995年3月2日企業との和解が成立すると、裁判が裁判後の住みよい街の実現に結びついていくことを願い、被害者を中心とする限定された市民運動から、消費者運動、医療運動など、運動の枠組みを市民全体に広げていくことが改めて注目されることとなる。

また、このような街づくりの課題を正面から取り上げることは、被告側に対しても和解契約の締結と、和解時に解決金を底上げする「大義名分」を与えることに気付いていく。

一方、原告側は、裁判での主張を、和解後真剣に取り組まねばならなくなった。ただし、この活動は、当時広く世界を見渡してもそう例がなく、簡単に前進していける保証はなかった。だが、西淀川公害の原告団や被害者たちは、困難だが、夢のあるこの課題の実現に向けて前進することで同意したのである。1996年9月には、和解金の一部を使い、あおぞら財団が設立された。財団研究主任には、大阪都市環境会議で中心的な活動をしていた傘木宏夫が迎えられた。彼は、写真に掲載した図面作成を指導し、また、なすべき課題を文章で提起していった。これらはこの運動のガイドラインとされていく。

西淀川・公害と環境資料館エコミューズ利用のご案内



公害や西淀川地域に関する図書や、西淀川公害公害裁判資料、弁護団や患者会・住民運動などの写真や資料等を所蔵しています。ぜひ一度、お越しください。

◆利用案内 開館時間：月・金曜日 10:00-17:00
web: <http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>

キティが行く！ 第3回 西淀川 ボランティア探訪記

にしよどおやこ防災部

「生活の中に防災を！」西淀川で防災について学びあうゆるやかなネットワークが、「にしよど親子防災部」です。

にしよど親子防災部では

・防災かるた大会 ・防災ロゲイニング

・防災さんぽ ・防災クッキング

などを開催していますが今回は夏休みに開催された「にしよど防災かるた大会」を紹介します。

今回で3回目になる「にしよど防災かるた大会」で使用するかるたは、5年前に作品募集をした、西淀川区民が作った西淀川区ならではのかるたです。

大会の対象者は小学生。今回はかるたの前にTOAさんに防災人形劇「カンカン塔のみはりばん」を上演していただきました。



人形劇
「カンカン塔のみはりばん」



ながの みほ
長野 美保
息子がキティ好きだったことから愛称はキティ。西淀川おもちゃ図書館おもちゃばこ(現在は閉館)をはじめ、西淀川区内の様々なボランティア活動・市民活動に長年関わっています。

参加型だったので子どもたちも大変楽しんでもくれました。

その後の「防災かるた大会」も白熱し、今回は高学年と低学年に分け

て表彰したので、低学年の子も嬉しそうにしています。最後は区役所防災安全課の方が用意してくれた災害時に使用できるトイレや段ボールベッドの展示を見て終了です。



白熱する防災かるた大会



にしよどおやこ防災部では仲間を募集しています!!一緒に楽しく活動しましょう(o^ー^o)

西淀川の親子防災に関するお役立ち情報を発信中!



環境ニュース

いい香りが、誰かの頭痛の原因に…?

香害って聞いたことがありますか?香害とは、柔軟剤や合成洗剤、化粧品など多くの日用品に含まれる合成香料の主成分や添加剤として含まれる化学物質の複合影響によって、頭痛、吐き気、アレルギー症状などさまざまな健康被害が生じること。最近は学校や病院でも「香りで気分が悪くなる」という相談が寄せられ、国会でも取り上げられるほど社会問題化しています。香りを閉じ込めるマイクロカプセルが時間差で壊れて揮発し続ける商品もあり、被害が長時間に広がります。あなたのよい香りが、誰かをしんどくしているかもしれません。

無香料の商品を選ぶことや香りの強い製品を控えることが、被害を減らす第一歩。香害について知り、配慮し合える社会を一緒に作りましょう。☺



厚生労働省、経済産業省、環境省のポスター

香害に声をあげるお二人の声

お二人は車いすユーザーで、香害がさらに行動制約に!



すずき ちはる
鈴木 千春さん

車いすを使う生活はあらゆる場面で人と関わります。数年前から一部の洗剤柔軟剤で頭痛や口内のしびれなどが出るようになり、病院や交通機関、スーパーなどでも香害を感じ、帰宅後にも不調を引きずります。「香害は公害」です。安心して生きられる空気と環境をめざして、みなさんと自分ごととして考えあう社会をつくりたいです。



のぼりぐち みちこ
登り口 倫子さん

私も車いすユーザで、介助を受けて生活しています。ヘルパーさんが香り付き洗剤で洗った服や香りのあるハンドクリームを使っていると、頭痛や息苦しさが出て家にいらなくなります。障害のある方の悩みを伝え、ヘルパーへの啓発や交流の場作りを始めました。香害を防ぐ買い物のあり方の情報発信にも取り組んでいきたいです。

あおぞら広場

ありがとうございます

(2025年4月～2025年8月 敬称略・順不同)

- | | | | |
|----------------|--|--|--|
| ●お助け
ボランティア | 大野 光明
小杉 亮子
MOKU
渡辺 哲敬
岡崎 久女
山下 晴美
増本 美江
龍谷大学清水ゼミ
3年生のみなさん | 佐野 郁夫
澤田 佳宏
島 正之
清水 万由子
鈴木 正規
鈴木 堯博
高田 研
谷 智恵子
津留崎 直美
TK.Nara | 認定NPO法人
日本都市計画家協会
早川 光俊
藤江 徹
ほぼエコCafé &
Gallery NAZ(ナース)
松村 暢彦
松本 嘉子
村松 昭夫
meg
山岸 公夫
山崎 義郷
鎗山 善理子
吉村 良一
他 匿名1名 |
| ●寄附・寄贈者 | 北泊 謙太郎
穂久 英明
植田 和弘
内田 寛
大島 民旗 | TOA株式会社
光山 拓実
中村 昌史
中山 裕二
ニックネーム Y
新田 保次 | |

あおぞら財団 寄附のお願い

日ごろよりあおぞら財団の活動にご支援とご協力を賜りありがとうございます。みなさまからの大切な寄付を私たちの活動に役立ててまいります。

●西淀川公害がわかる資料集をつくります！

いま、エコミューズでは資料を改めて調査し、公害の形成、その中での生活の姿、裁判を中心とする患者の活動を蘇らせようと、基礎的な資料集の作成に取り組んでいます。どうぞみなさまの寄付によってこの活動を支えてください。

●オンライン寄附サイト Give One(ギブワン)

お振込み以外にも、オンライン寄付サイト「Give One」からはクレジットカード決済での寄付も可能となっております。ぜひ、ご利用いただけますと幸いです。

<https://giveone.net/>

クレジットカード決済・ページをお選びいただけます。
「あおぞら財団」で検索してください。



編集後記

「薬なく一日送るは雲を掴むほどの夢かと聖書開きぬ」「行く道で倒れるやらも知れぬ帰途のタクシ一代確かめ出する」。村田のぞみさんの作品のモチーフとなった公害患者の実藤雅徳さんの短歌です。公害患者さんの切実な思いがアートや作品として新たな命を宿したのを嬉しく思います。

りべら No.169 2025年10月号(年3回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:谷内 久美子

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)バード・デザインハウス

会員の購読料は会費に含まれています。

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団
Facebookページ
「いいね!」を
押してくださいね。



スタッフから一言

資料館のアルバイトに携わって半年が経ちました。所蔵の資料からは、公害被害の大きさと、すぐその煙の責任を簡単には立証できなかった裁判のむずかしさとが切にうかがわれます。このことを忘れないために、そして、積み重ねてきた生活や規制がこわされてしまう社会にならないように、お仕事を通じて学びながら、取り組んでいきます。



エコミューズ資料整理スタッフ・せきたに こうた
大阪公立大学大学院 関谷 洸太

「りべら」に広告を掲載しませんか？

年3回発行の「りべら」は、あおぞら財団会員様をはじめ、西淀川の公共施設・店舗など、様々なスポットに配布しています。あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からの広告の掲載を募集中です。

【りべら広告掲載費】

中面1/9頁: 1万円/回、中面1/3頁: 3万円/回、中面全面: 9万円/回
※お問合せ先:あおぞら財団まで TEL06-6475-8885

西淀川菜の花プロジェクト ～エコでつながる西淀川～

【廃油回収量】	
総合計68,703L	
(2009年7月から2025年8月まで)	
2025年度	2,264L
2024年度	2,789L
2023年度	3,317L
2022年度	3,311L
2021年度	3,440L
2020年度	3,043L
2019年度	3,376L
2014年度～2018年度	25,335L
2009年度～2013年度	21,828L

現在西淀川区内外約50箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。

エコでつながる
西淀川推進協議会
事務局:浜田化学株式会社
06-6411-3457

廃油回収先拠点は
こちら▶



ぜん息・COPDに関する 電話・メール相談室

広告

環境再生保全機構が運営する「ぜん息・COPD電話相談室」は「ぜん息・COPD」に特化した内容を無料で相談できるものとなっており、全国から毎年1000件近くの相談を受けています。

今使っている薬やこれからの治療など、ぜん息、COPDに関する心配ごとやお悩みごとについて、専門医と看護師や保健師がお答えします。ご本人様はもちろんご家族の症状まで、どなたでもお気軽にご相談いただけます。

電話だけでなくWebでの相談もできますので、ぜん息やCOPDについて疑問や不安に思っていることなどがありましたら、ぜひ一度ご相談ください。



フリーダイヤル: 0120-598014 (こきゅうはい～よ)

受付曜日・時間: 月～土曜日(祝日・年末年始を除く) 10:00～17:00

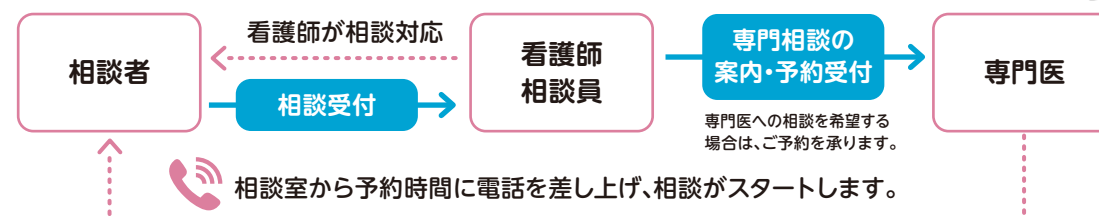
ぜん息・COPDに関する電話相談室

小児ぜん息・成人ぜん息・COPDの専門医や看護師が無料でお答えします。

ぜん息・COPDに関する心配ごとや悩みごとについて、電話やメールでご相談いただけます。専門医による電話相談日はホームページ等でお知らせしております。あらかじめ電話で予約をお取りいただくと、専門医相談日の予約時間に相談室からお電話いたします。



相談の流れ



詳しくは ぜん息 電話相談 | 検索

またはこちらから

<https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/service/tel.html>



環境再生保全機構は、環境問題に幅広く対応するための政策実施機関として設立された環境省所管の独立行政法人です。

環境再生保全機構では **様々なパンフレットも全て無料で配布しております**。提供しているパンフレットの一覧はホームページからご覧いただけますので、少しでも気になるパンフレットがあればお電話もしくはホームページからお申込みください。

<https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/form/index.html>



独立行政法人
環境再生保全機構

TEL:044-520-9504(予防事業部代表) <https://www.erca.go.jp/>